

No. 1290

'78 ミス東京決まる

首都の若い女性代表を選ぶ「第22回ミス東京コンテスト決選大会」が9月29日、東京、日比谷公会堂で華やかに行われました。東京全域の地区ミス49人がお揃いのカクテルドレスに身を包み、かわいい王冠姿で出場、昨年のミス東京から激励の花束が送られました。小川哲哉さんのユーモアたっぷりの司会でひとりひとり舞台の中央に進み、美と知性を競いました。このコンテストは東京都が後援で東京新聞が主催、審査には美濃部東京都知事をはじめ17人があたりました。一問一答形式で審査は進みます。今回の出場者の中には自分で応募した人が多く、ミス東京の栄冠を目指すことは「若い日の思い出をつくる」ことであり「青春の冒険」でもあるようです。最後は舞台を降りて審査員に大サービス。

審査の結果ミス東京第2位には松原恵珠さん（22才、世田谷区代表）と友杉祐子さん（19才、小金井市代表）の2人が、晴れのミス東京第1位には桑原由美子さん（22才、世田谷区代表）が選ばれました。誕生したばかりの「ミス東京」のパレードが10月3日、秋空のもと行われました。午前10時紙吹雪と五色のテープの舞う東京新聞本社前をスタート、沿道の都民から盛んな歓迎を受けました。ミス東京は向こう一年間都民を代表して国際親善や公式行事に出席、活躍することになっています。

さよなら“京の名物”

日本で最古の路面電車、京都の名物、市電が9月30日で姿を消した。明治28年、京都の町に登場し、以来83年間、古都を走り続けた市電。都大路を華々しく走ったのも、現代のスピード時代には勝てず、ほう大な赤字をかかえながら、ついに引退。が一方では最後の日が近づくにつれ「さびしいどすなあ」「さびしおすえ……」と惜しむ声も高まった。各地からは観光客やマニアも殺到、カメラをかまえる。皮肉にも、別れを惜しむ人々で市電は連日満員。9月30日、最後の花電車、市ではささやかに労をねぎらった。

時代の流れに押されて消えた市電、が、やはりさみしさは隠しきれない。